

電源を入れる

まず始めに電源をONにします。使い終わったら電源をOFFにするのを忘れないでください。



【POWER】を押す
電源が入り、ディスプレイに周波数が表示されます。

(THHF28の場合)



(THHF48の場合)



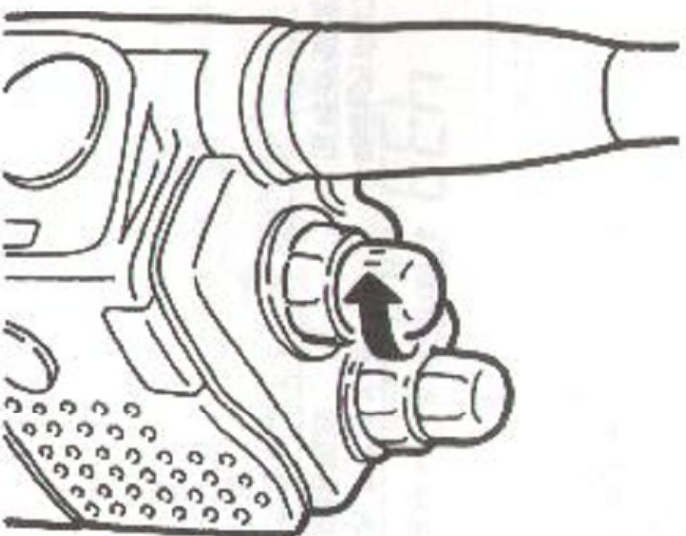
もう一度押すと、電源がOFFになりディスプレイの表示が消えます。

ボリュームを調節する

ザーツという音が聞こえるまでVOLつまみを回します。



【VOL】を時計方向に回す
ザーツという音か、交信中の音声が聞こえます。



スケルチを合わせる

信号のないチャンネルを受信すると、ザーという雑音が入ります。この雑音をなくす機能をスケルチと呼びます。



【SQL】を時計方向に回し、ザーという音が聞こえなくなるところに合わせて

スケルチのレベルが低すぎる（スケルチが浅すぎる）と雑音でスケルチが開いてしまい、逆にレベルが高すぎる（スケルチが深すぎる）と、雑音だけでなく弱い電波も聞こえなくなります。スケルチのレベルはSQLつまみで調整します。

SQLつまみ使用例：



注意 雑音が消える位置は、雑音電波や温度など周囲の影響により変化します。

交信する周波数に合わせる

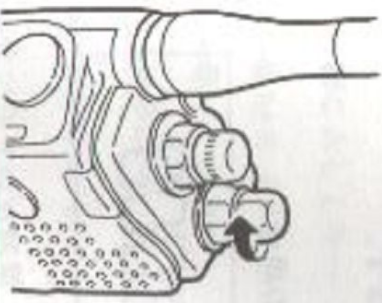
周波数を設定します。次の4とおりの方法があります。

- ・同調つまみを使う
- ・チャンネルを使う
- ・コールチャンネルを呼び出す
- ・メモリーチャンネルを呼び出す（「メモリーに登録する」P35参照）

●同調を使って周波数を合わせる



【同調】を回す
同調つまみを時計方向に回すと、周波数が20kHz（初期値）ずつ増加します。反時計方向に回すと、0kHzずつ減少します。希望する周波数に合わせてください。



周波数を1MHz以上増減するときは、MHzキーを押してから同調つまみを回すと、すばやく希望する周波数に合わせてことができます。

●テンキーを使って周波数を合わせる

[0] ~ [9] で周波数を入力する

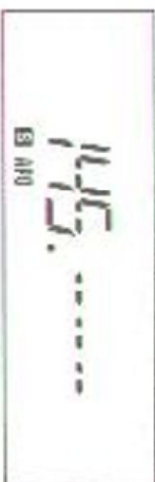
例：145.020MHzに合わせる（TH-F28）

MSG M

5 [JKL]

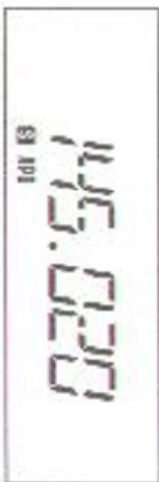
[5] を押す。

100kHz以下が --- で表示されます。



[0] [2] を順に押す。

SHIFT
0 []
DTSS
2 [ABC]



例：433.640MHzに合わせる（TH-F48）

[3] を押す。

CTCSS
3 [DEF]



[6] [4] を順に押す。

L OUT
6 [MNO]
4 [GHI]



・工場出荷時、周波数ステップは20kHzに設定されています。「周波数ステップを変更する」P23参照）。

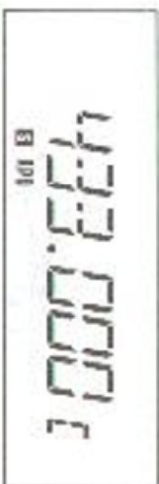
・最初に入力した数字がMHzの値となり、続けて入力した2つの数字が100kHzと10kHzの値となります。1kHzは必ず0になります。

●コールチャンネルに合わせる



[CALL] を押す

ディスプレイにコールチャンネル周波数とCが表示されます。



（TH-F48の場合）

コールチャンネルに設定されている周波数

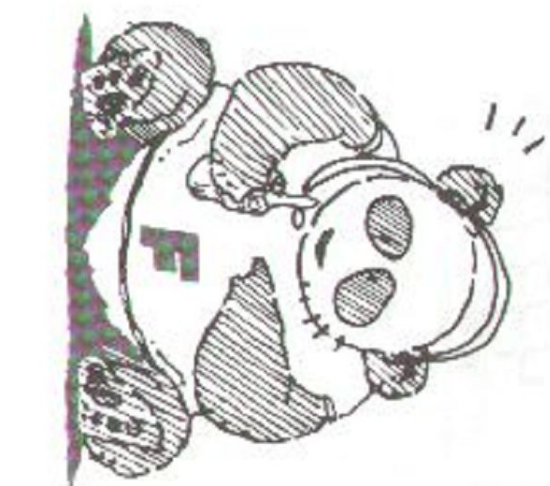
TH-F28：145.000MHz
TH-F48：433.000MHz

コールチャンネルの周波数は変更することができます。「コールチャンネルのデータを変更する」P28参照）。

受信する

マインバンドの受信

同調つまみやテンキーを使って希望の周波数に合わせます。信号を受信すると、相手の声が聞こえます。デュアルディスプレイにはBUSYとSマークが表示されます。



サブバンドの受信

メインバンドのほかにサブバンドを受信することができます。

TH-F 28

メインバンド (144~146MHz VHF帯)

サブバンド (430~440MHz UHF帯)

TH-F 48

メインバンド (430~440MHz UHF帯)

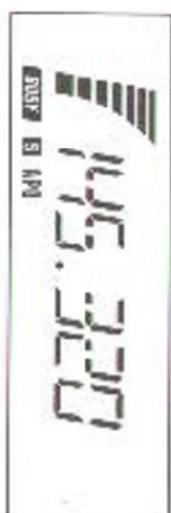
サブバンド (144~146MHz VHF帯)

サブバンドの送信はできません。



【BAND】を押す

サブバンドを受信できるようになります。サブバンドの周波数を合わせてください。



もう一度押すと、メインバンドの受信に戻ります。

メモリーにはメインバンド/サブバンドの区別なく、受信周波数を書き込むことができます。

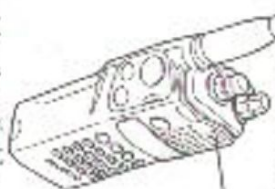
送信する



送信する前に、使用する周波数を他局が使用していないかを確認します。周波数が使用されていないことが確認できたら、送信を行います。



「PTT」を押しながら、マイクホンに向かって話
す



マイクホンの位置

メーターはバッテリーメーターに変わります。



バッテリーメーター



JA1△△△
こちらはJA1
○○○どろぞ

マイクホンは口元から5cm程度離してください。近づけすぎたり、離しすぎたりすると、相手が聞き取りにくくなります。

PTT

[PTT]を離す
受信状態に戻ります。メーカーはSメーカーに変わります。



相手の声が聞こえます



JA10000こちらは
JA1△△△です。
どうぞ！

タイムアウトタイマー

本機は連続して10分以上送信を続けると、強制的に受信状態に戻ります。さらに送信を続けるときは、いったんPTTスイッチを離して、もう一度押し直してください。この機能は解除できません。

注意

- ・送信する前に、低SWR (1.5以下) のアンテナが接続されていることを確かめてください。
- ・送信する前に必ずその周波数を受信し、他局が受信していないことを確かめてください。
- ・ハンドバラーで長時間送信すると、機器の温度が上昇し、故障の原因となることもありますので、ご注意ください。

こんなときこう使う シチュエーションインデックス

●違うバンドの無線機と交信したい

Kさんが無線機買ったって



早速、交信してみよう



あれ、バンドが違うけど交信できるのかな



クロスバンド
▶ P 60

●よく使う周波数を簡単に呼び出したい

いつも使う周波数が同じ
Zさんとは〇〇MHz
Gさんとは△△MHz



設定し直すのは大変



簡単に呼び出す方法は



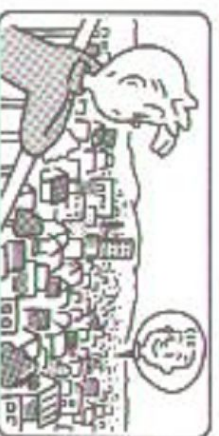
Xメモリー
▶ P 35

●遠くの相手と交信したい

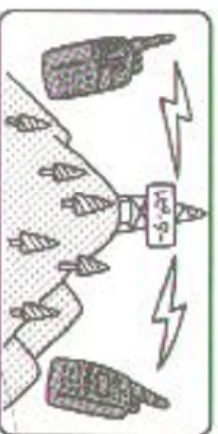
Cさんと交信したい
んだけど..



Cさんの家は遠くて
電波が届かない



もっと大きな無線
機を買わないとだ
めかな



レピーター
▶ P 32

●あの人だけと交信したい

Kさんだけと交信し
たいんだけど..



他の人の声ばかり
入ってくる。



キヤンペラに行った
ときにも使いたい
んだけど



CTCSS、DTSS、
ノーシング
▶ P 46